

①

日記

新憲法私案

上出養年



Kyoto University



公認シタワケガアル。
 私ハ現在ノアメリカ合衆国が人類史上カツ
 テナキ善意アル征服者タルコトヲ確信シ且
 ノ崇高ナル態度ニ対シテ尊敬ノ念ヲ懐ク故
 キ私ニトツテ次ノ如キ假定ハ殆ンド無意味
 ナルガ。モシ不幸ニシテコノ信念ト尊敬トヲ
 失ハザルヲ得^{シムル}ヤウナ事實が吾々ニ示サレ
 ル時が来ルトシタナラバ、^{ソノ時ニ}將來ノ世界ハ正義
 ナリ^ト黒^{ナル}カ^ルガザ^ルバ^キ運命^ヲ予^テ約
 サレ^ルテ^ラウ。思フニ、今コソ人類ノ重大

ミニ参加シ真ノ平和ニ貢献シ得ル如ク自國ノ
 將來ヲ決定スベキ村会ヲ与ヘラレタ^レテアル
 ガ。コノ事ガ日本憲法村構ノ根本的変革ヲ必
 要トスルコトハ現在デハ最良説明ヲ要セ又事
 實デアル。大^右ノコソニケハ、コノ変革ヲ
 関シ明確ニ未標ヲ与ヘルト同時ニモシ吾々
 がコノ^未標ノ含々真理ヲ自覚シ得ガ^ル場合
 ナ^ハ之ヲ指導シ又モシンノ自覚内容が正道ヲ
 逸スルトキハ之ヲ矯正シ^レルが正シ^イ場合ニ
 小之ヲ助長スベキ責任ト自由ト有スル^ル権利

Kyoto University



止王国ハ其ニ「ペルシヤ」帝国ノ征服スル所トナ
 リ、「ペルシヤ」ハ「マケドニア」国王「アレクサンダ
 ー」ノ遠征軍ニヨツテ征服セラレ、新興「ローマ」
 帝国ガ覇ヲ統フルニ及ンテハ「マケドニア」モ遂
 ニソノ傘下ニ入り、強盛「ローマ」帝国モ亦「ゲル
 マニ」民族・大移動ノ打撃ニヨツテ崩壊ノ
 一途ヲ辿リ、「ヨーロッパ」地ハ「ヤガテ」ゲルマニ
 ノ世界トナリ、諸葛藤ノ末「チユートン」抬頭シ、
 二回ニワタル世界大戦ヲ経テ「アングロ・サクソン
 ン」ノ征覇トナツタ。斯様ナ征服ノ「史ヲ経テ

西洋文化ハ「エジプト」「メソポタミア」ノ源ヨリ地
 中海ヲ渡リ「ヨーロッパ」大陸ヲ経、大西洋ヲ渡
 フテ「新大陸」ニ至リ、「アムステルダム」ガ「北アメリカ
 カ」大陸ヲ越シ、太平洋ヲ渡ラントシテ「北アメリカ
 一方」ガ「インド」ノ流域ニ芽生エタ「印度
 文化」ハ「黄河」中流ニ興ツタ「支那」文化ト共ニ「支那
 大陸」ヲ截ギリ「朝鮮半島」ヲ経、「モリウ」ハ「東支那
 トリ」我日本ヘ伝来シタ。日本ガ従来東洋文化
 ノ増殖トシテ多ク「雑多ナル」文化財ヲ熔融シ美シキ結
 晶ヲ作り来ツタコトハ「現存」「書畫」及「美術品」所
 示スルガ、

書籍

Kyoto University



アメリカ合衆国が西洋文化の粹ヲ聚メソノ根
 柢タル科学精神ヲ以テ物質力ヲ遺憾ナク驅使
 シタトキ、東亞ノ防壁ヲ以テ自任セ日本ノ征服ヲ成就
 シタトキ、奇シクモ日本ニ於テ四ツノ夫々異
 ル源ヨリ發スル世界文明ノ悉皆伝来が成就シ
 タトイフコトハ何ヲ暗示スルモ、テアラウカ。
 思フニ無数ノ天体ハソノ配列ト運動トニ於テ
 秩序ヲ有シソノ天体ノ一タル地球上ノ万物及
 ソノ要素タル原子ニ於テモ一定ノ秩序が認め
 ラレテ居ル。カクノ如ク宇宙ノ万象ハ不軌雜

多ノ中ニ秩序ヲ有シカ、ル秩序ノ下ニ統一ヲ
 保テ統一アルが故ニ無窮デアル。而モ不思議
 ナトト至大ノ天体極微ノ原子共ニニツノ中
 心ヲメグツテソノ統一ヲ保ツモ、ト考ヘラレ。
 ヌノニツノ中心ノウチ太陽又ハ陽子ト稱セラ
 レルモノハ一定ノ質量ト位置トヲ有スルモノ
 ト考ヘラレ。ニ對シ他ノ一ツハ汝ナク位置不
 定ト考ヘラレ。モタズ強ヒテ名付ケレバ、
 中心トモ云ハルベキモ、ト考ヘラレ。コノ
 ニ中心ノ關係ト人間存在ニオケル精神ト物質

Kyoto University



國王ヲ存スルコトガカヘツテソノ國ノ健全ナ
 民主主義ノ助長ヲ一層確實ニ約束スルヤウナ
 場合ニハ、國王ヲ存置スルコトハ誠ニマシク
 ラアルベカラウ。要ハ吾々が健全ナル民主主
 義ヲ最も好キ條件ノモトニ育成シ得ル國家材
 構ヲ自ラ決定スルニアル。シカモコノ決定が
 國民ニ對シ又諸外國ニ對シ恒久的ニ保障セラ
 レンガタメニハ、憲法ニヨツテソレガ明確ニ
 規定サレネバナラヌ。吾々ハ今ヤ此ノ決定ヲ
 正義ヲ重シジ平和ヲ愛好スル人類ノ名ニ於テ

否カハ國王ノ有無ニハ關係ガナイ。ト考ヘル。
 插シタ如ク、或ル國家ガ民主主義的ナルカ
 二月ニ六日ノ定例日本新聞記者會談ニ於テ指
 私ハ聯合軍司令部「スポークスマン」ガ昨年一
 私ニハ理解サレテ来ルヤウニ思ハレル。
 ルコトヲ思フトキ、幸ヘラレタ暗示ノ内容ガ
 民主制ガ多ク本位トスル莫ニ於テ物質ニ通ズ
 精神ニ通ジ近代「ヨーロッパ」文化ノ育テ来ツタ
 養ヒ来ツタ君主制ガ一ヲ本位トスル莫ニ於テ
 ノ關係トヲ考ヘ合セツ、東洋文化ノ又シク

Kyoto University



コノ決定ヲ行フベキ責務ト光榮ト有スル
 ノデアル。吾々ハ之ヲ拒否モシクハ辭退スル
 コトハ不可能デアリ。又徒ニ之ヲ遷延スルコ
 トハ許サレナイ。然ルニコノ責務ト光榮トヲ
 共ニ与ヘンコトヲ約束スル「ポツダム」米英支
 三国宣言ヲ受諾シテヨリ半才ニ重ントスル今
 日、政府ハ聯合國例ニ倣テ責任ヲ負フ。然レ
 又、從来ノ規定條項ヲ因襲ス。民権新報
 ナリ。我々ハ聯合國ノ代表者トシテ、
 責任ヲ負フ。我々ハ責任ヲ負フ。我々ハ責任ヲ負フ。

憲法改正草案ハ自己ノ立場ヤ世情ニトラワレ
 テ日本國ニオケル民主主義ノ健全ナル發展ヲ
 助長スベキ條件ニ關スル公正ナ檢討が出来テ
 治家デモナイガ、眞理ノ探宷ニ志ス日本國民
 ノ一人トシテ、ソノ義學者・パリサイ人ニ勝ラ
 ズバトイフ固キ信念ノモトニ「新日本憲法私案」

憲法改正草案ハ自己ノ立場ヤ世情ニトラワレ
 テ日本國ニオケル民主主義ノ健全ナル發展ヲ
 助長スベキ條件ニ關スル公正ナ檢討が出来テ
 治家デモナイガ、眞理ノ探宷ニ志ス日本國民
 ノ一人トシテ、ソノ義學者・パリサイ人ニ勝ラ
 ズバトイフ固キ信念ノモトニ「新日本憲法私案」



ノ草ヲ起シ
 ソレニ伴フ必然的ナ責任トシテ
 新皇室典範私達ノ筆ヲ執ルニ至ツタ
 次才アリ

新日本憲法私案

工. 天皇

1. 日本國ハ一系ノ天皇之ニ君臨ス
 2. 日本國皇位ハ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼
 承ス
 3. 皇位ハ皇長子ニ伝フ
 4. 皇長子ナキトキハ皇長孫ニ伝フ
 皇長子及ソノ子孫皆ナキトキハ皇次子及ソ
 ノ子孫ニ伝フ



以下皆之ニ例ス

5. 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス

皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆ナ

キトキニ限ル

6. 皇子孫皆ナキトキハ皇兄弟及ソノ子孫ニ位

フ

7. 皇兄弟及ソノ子孫皆ナキトキハ皇伯叔父及

ソノ子孫ニ位フ

8. 皇伯叔父及ソノ子孫皆ナキトキハ最近親ノ

モノニ位フ

9. 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ

後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

10. 皇嗣精神モシクハ身体ノ重患アリ^{又ハ}重大ノ事

故アルトキハ皇室會議ノ審議ヲ經議會ノ協

賛ヲ以テ前數條ニヨリ繼承ノ順序ヲ換フル

コトヲ得

11. 天皇崩ズルトキハ皇嗣即チ踐祚ス

12. 天皇精神モシクハ身体ノ重患ヲ得^{又ハ}重大ノ事

故ヲ生ジタルトキハ皇室會議ノ審議ヲ經議

會ノ協賛ヲ以テ皇嗣ニ讓位ス

Kyoto University



13. 天皇ハ国家ノ良心ナリ詔勅ヲ以テ之ガ表示
ヲ行フ

(註) 詔勅發布ノ大権ハ政府・議會又ハ国民一般
ニ対スル国家良心ノ表示ニ関係シ、主ト
シテ対内的意義ヲ有ス。

14. 天皇ハ外ニ対シ国家ノ信義ヲ代表ス
(註) 27. 「條約締結ノ規定ニ應ズ。

15. 天皇ハ儀礼ニ関シ国家ヲ代表ス
16. 天皇ハ国民ノ榮譽及恩典ノ源泉ナリ
(註) 28. 「榮譽授与ノ規定及 29. 「大赦特赦等ノ規定

ニ應ズ。

II. 政府

17. 日本国ハ天皇ノ委任ニヨリ執政之ヲ統治シ
ソノ責ニ任ズ

18. 執政ハ法律ノ定ムル所ニヨリ公選セラレ天
皇之ヲ任命ス

19. 執政ハソノ任期ヲ四ケ年トス
法律ニ定メタル国民投票ニヨリ不信任ヲ票

決サレタルトキハ議會モシクハ議會ノ常置

Kyoto University



委員会ノ上奏ニヨリ勅命ヲ以テソノ職ヲ免セ

ラルルコトアルベシ

20. 執政ハ國務大臣ヲ任命シ政府ヲ組織ス

21. 政府ハ議會ノ協賛ヲ以テ立法権ヲ行フ

22. 政府ハ法律ヲ裁可シソノ公布及執行ヲ命ズ

23. 政府ハ議會ヲ召集シソノ開會閉會停會

24. 政府ハ~~衆議院~~解散ヲ命ズルコトヲ得

衆議院解散ニ反対ノ意ヲ表明スルトキハ法律ニ定メタル國民投票ニ向ヒ可否ヲ決スベ

シ

25. 政府ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハソノ災厄ヲ

避クルタルタメ緊急ノ必要ニヨリ議會閉會中議

會ノ常置委員会ノ協賛ヲ經テ法律ニ代ルベ

キ命令ヲ發ス

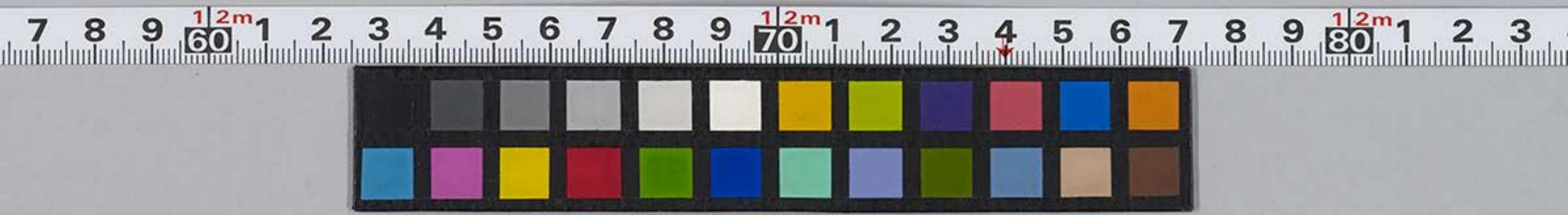
コノ命令ハ次ノ会期ニ於テ議會ニ提出スベ

シモシ議會ニ於テ承認セザルトキハ政府ハ

嚮後ソノ効力ヲ失フベキコトヲ公布スベシ

26. 政府ハ官吏ヲ任免シ又議會ノ協賛ヲ以テ行

政各官制及官吏ノ俸給ヲ定ム



<p>35. 国民ハ法律命令ノ定メタル資格ニ應ジヒトシク、国家ノ公務及官吏ノ職ニツクコトヲ得</p>	<p>36. 国民ハ別ニ定ムル規定ニ從ヒ政府及議會ニ</p>	<p>對シ請願モシクハ建議ヲナスコトヲ得</p>	<p>(註) 国民一般ノ官廉ニ對スル公訴ハ議會ヲ通</p>	<p>ジテ行ハレ得ベク、行政裁判ハ之ニヨリテ公正ナラシメラルベシ。</p>	<p>37. 国民ハソノ所有権ヲ侵サルルコトナシ公益ノタメ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニヨル</p>	<p>38. 国民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住言論著作印行集会結社及信教ノ自由ヲ有ス</p>	<p>39. 国民ハ法律ニヨラズシテ逮捕監禁審問處罪^{↓一字}住所ノ侵入モシクハ搜索ヲ受ケ及信書ノ^{↓字下}秘密ヲ侵サルルコトナシ</p>	<p>如、前二條ニ關スル法律ハ国民投票ソコト決テ經ルヲ要ス</p>	<p>IV. 議會</p>	<p>40. 議會ハ衆議院參議院ノ兩院ヲ以テ成立ス</p>	<p>41. 兩議院ハ法律ハ定ムル所ニヨリ公選サレタル議員ヲ以テ組織ス</p>
--	--------------------------------	--------------------------	--	---------------------------------------	--	--	---	-----------------------------------	---------------	-------------------------------	---



(註)衆議院議員ノ選挙ハ比例代表制ニヨリ、
 参議院議員ノ選挙ハ村能代表制ニヨルモ
 ノトス。

42. 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ズ
 43. スベテ法律ハ議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス
 44. 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及
 各々法律案ヲ提出スルコトヲ得
 45. 衆議院ニ於テ否決シタル法律案ハ同会期中
 兩ビ提出スルコトヲ得ズ
 46. 衆議院ヲ通過セル議案ニシテ参議院ノ修正

モシクハ否決ヲ受ケタルモハ衆議院ノ再
 議ニ附シ出席議員三分ノ二以上ノ多数ヲ以
 テ兩ビ可決サレタルトキハ先ノ修正モシク
 ハ否決ハソノ効力ヲ失フ
 47. 兩議院ハ法律又ハソノ他ノ事件ニツキ各々
 ソノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得
 48. 兩議院ハ各々皇室會議ニ建議スルコトヲ得
 49. 議會ハ統治權ノ行使ニ関シ政府及官廳ニ對
 スル公訴ヲ提議スルヲ得

善行ニ對シテ

善行ニ對シテ



56.	席スルニアラガレバ議事ヲ閉キ議決ヲナス	コトヲ得ズ
55.	衆議院ノ解散ヲ命ジタルトキハ政府ハ新ニ議員ヲ選挙セシメ解散ノ日ヨリ五ヶ月以内ニ之ヲ召集スベシ	衆議院ノ解散ヲ命ジタルトキハ政府ハ新ニ議員ヲ選挙セシメ解散ノ日ヨリ五ヶ月以内ニ之ヲ召集スベシ
54.	議会議會ノ閉會及會期ノ延長ハ兩院同	法律ニ定メタル國民投票ニ向ヒ可決サレタルトキハ議會議會ノ協賛ヲ要セズ
53.	臨時緊急ノ必要アルトキハ臨時會ヲ召集ス	臨時緊急ノ必要アルトキハ臨時會ヲ召集ス
52.	議會議會中ハ常置委員會議會ノ職責ヲ准行	必要ト認メラルル場合ハ議會議會ノ協賛ヲ以テ政府會期ノ延長ヲ命ズベシ
51.	議會議會ハ毎年之ヲ召集ス	議會議會ハ五ヶ月ヲ以テ會期トス



大國事裁判所ハ政府及官廳ニ對スル議會ノ公訴ヲ審理ス↑

64. 大審院ハ最高ノ司法機關ニシテ一切ノ下級

司法機關ヲ監督ス

65. 大審院長ハ法律ノ定ムル所ニヨリ公選セラ

レ政府之ヲ任命ス

(註) 大審院長公選ノ方法ハ執政公選ノ方法ト

異レルヲ可トスルカ如シ。

66. 大審院長ハ國事裁判所長ヲ兼ヌ*

67. 大審院長國事裁判所長ノ任期ハ四年トス

但シ法律ニ定メタル國民投票ニヨリ不信任

ヲ票決カレタルトキハ議會ノ協賛ヲ以テ政

府之ヲ免ズベシ

68. 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具スル者ヲ

以テ之ニ任ズ

69. 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

但シ法律ニヨリ對審ノ公開ヲ止ムルコトヲ

得

70. 特別裁判所ノ管轄ニ屬スベキモノハ別ニ法

律ヲ以テ之ヲ定ム

71. 行政官廳ノ違法處分ニ對スル訴訟ニシテ法

律ニ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スベキ

Kyoto University



モノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニア
ラス

72. ~~国家ノ歳入歳出~~ VI. 会計
ハ各会計年度毎ニ予算ニ規定シ

73. 衆議院ノ承認ヲ經タル予算ノ項目及金額ニ
會計年度ノ開始前ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

74. 事業会計ニツイテハ毎年事業計画書ヲ提出
シ議會ノ承認ヲ經ベシ

特別会計ハ事業会計ニツイテノミ之ヲ設ケ
ルヲ得

75. 租税ヲ課シ税率ヲ変更スルハ毎年法律ヲ以
テ之ヲ定ムベシ

76. 国債ソノ他予算ニ定メラレタルモノヲ除ク
ホカ国庫ノ負擔トナルベキ契約ハ毎年議會

ノ承認ヲ經ベシ

77. 皇室經費ハ毎年議會ノ承認ヲ經テ国庫ヨリ
之ヲ支出ス

78. 歳入歳出ノ決算ハ会計検査院ノ検査ヲ經テ

Kyoto University

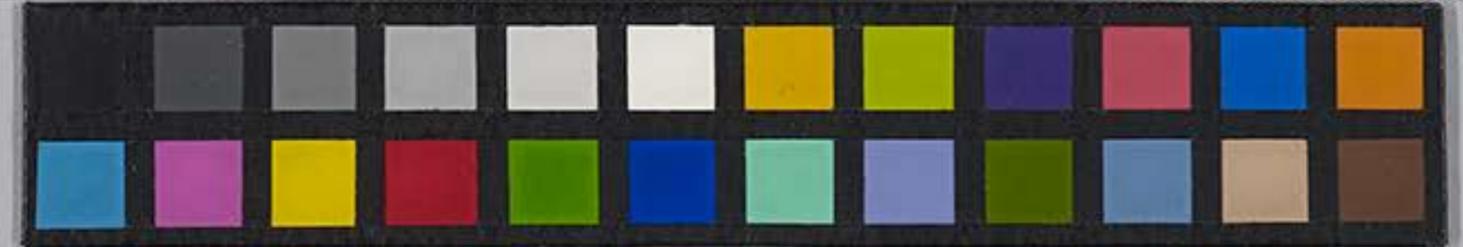


ル後政府ハソノ検査報告ト共ニ之ヲ次ノ会
 計年度ニ議會ニ提出スベシ
 會計検査院ノ組織及權限ハ法律ヲ以テ之ヲ
 定ム

Ⅳ. 補則

79. 將來コノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アル
 トキハ天皇皇室會議ノ審議ヲ經ソノ議案ヲ
 議會ノ議ニ付シモシクハ議會議案ヲ上奏シ
 夫々協賛モシクハ裁可ヲ經法律ニ定メタル

國民投票ノ可決ヲ以テ之ヲ行フバシ
 前項夫々ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々ソノ總
 議員三分ノ二以上出席スルニアラザレバ議
 事ヲ開クコトヲ得ズ出席議員三分ノ二以上
 ノ多数ヲ得ルニアラザレバ改正ノ議決ヲ十
 スコトヲ得ズ



新皇室典範私案

一、皇室

1. 皇室トハ天皇太子皇太后皇太后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王ヲ

イフ

2. 諸嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子ナキトキ

ハ諸嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

3. 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマデハ男子ヲ親王女

子ヲ内親王トス

4. 天皇支系ヨリ入りテ大統ヲ承クルトキハ皇

兄弟姉妹タル者ニ特ニ親王内親王ノ号ヲ宣

賜ス

5. 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年

トス

前項ノホカノ皇室ハ滿二十年ヲ以テ成年ト

ス

6. 天皇ハ皇室ヲ監督ス

7. 皇室男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官僚

ニ命ジ保育ヲ掌ラシム事宜ニヨリ天皇ハソ

II. 皇室會議

16. 皇室會議ハ成年以上ノ皇室ヲ以テ組織シ官

内大臣大審院長ソノ他勅命ニヨツテ指定セ

ル者ヲ以テ參列セシム

17. 皇室會議ハ天皇親臨ノモトニ之ヲ行フ

天皇止ムヲ得ガル事故アリテ親臨不可能ナ

ルトキハ議長ヲ勅定シ之ニ審議ノ主裁ヲ委

任ス

18. 皇室會議ハ議會ノ上奏文建議文ソノ他ノ重

要ナル國事及皇室事務ニ關シ審議ス

III. 宮内大臣

19. 宮内大臣ハ宮内省官制ノ定ムル所ニヨリ皇

室一切ノ事務ニ關シ天皇ヲ輔弼シソノ責ニ

任ズ

20. 宮内大臣ハ議會ノ上奏文及建議文ヲ受理シ

之ヲ皇室會議ニ提出スバシ

21. 宮内大臣ハ議會ノ推薦ニヨリ天皇之ヲ任命

シ皇室會議ノ審議ヲ經テ勅命ニヨリ之ヲ免

ズ



之ヲ執行ス

25. 皇室ニアラガル国民ノ皇室ニ対スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス

26. 皇室ソノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ対シ忠順ヲ缺クトキハ皇室會議ノ審議ヲ經勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シソノ重キハ皇室ノ特権ヲ一部又ハ全部ヲ停止シモシクハ剝奪スバシ

前項ニヨリ特権ヲ剝奪サレタル皇室ハ皇室會議ノ審議ヲ經勅旨ニヨリ臣籍ニ編入スル

IV. 太傅

22. 太傅ハ天皇未ダ成年ニ達セザルトキ之ガ保育ノ任ニ當リ重要ナル國事ニ關シ天皇ヲ輔弼シソノ責ニ任ズ

23. 太傅ハ議會ノ協賛ヲ以テ皇室會議之ヲ任免ス

V. 皇室訴訟及懲戒

24. 皇室相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニヨリ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命ジ裁判セシメ勅裁ヲ經テ

Kyoto University



協賛員ヲ以テ之ヲ勅定スベシ	必要ナルトキハ皇室會議ノ審議ヲ經議會	將來ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スル	VII. 補則	臣之ヲ公告ス	議ヲ經議會ノ協賛ヲ以テ之ヲ勅定シ宮内大臣之ヲ公告ス	世傳史料編入スル土地物件ハ皇室會議ノ審	シ	皇室ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムベ	29.
---------------	--------------------	--------------------	---------	--------	---------------------------	---------------------	---	---------------------	-----

會計法ノ定ムル所ニヨル	皇室經費ノ予算決算検査及ソノ他ノ規則ハ	皇室會議ノ審議	所行アルトキハ皇室會議ノ審議	ヲ經勅旨ヲ以テ治産ノ標ヲ宣告シソノ管財	若ヲ任ズベシ	家ニ入ル	前項ニヨリ臣籍ニ編入サレタル者ノ妻ハソ	コトアルベシ	27.
-------------	---------------------	---------	----------------	---------------------	--------	------	---------------------	--------	-----



① 新日本憲法私案ノ立場
 天皇ノ統治ノ主体
 天皇ノ統治ノ行使ハ
 政府ニ委任ス
 然レモ確シツテ共和制ノ長所
 ヲ取入レテ天皇制悪用ノ可能性ヲ根絶シ
 國家統治ガ公明ニ且健全ニ行ハレ得ルヤウ
 ニ留意シタ。

附屬文才一 私案ノ立場

32. 皇室ノ身位ノ他ノ^ノ權義ニ關スル規程ハコ
 ノ典範ニ定メタルモ^ノホカ別ニ之ヲ定ム
 皇室ト皇室以外ノ國民トニ涉ル事項ニシテ
 各適用スベキ法規ヲ異ニスルトキハ前項ノ
 規定ニヨル
 33. 法律命令中皇室ニ適用スベキモノトシタル
 規定ハコノ典範又ハ之ニモトツキ發スル規
 則ニ別條ノ規定ナキトキニ限り之ヲ適用ス



② 統治権行使ノ全権ヲ有スベキ政府ノ首班トシテ大統領ニ匹敵スベキ権限ヲ有スル執政

尚議會及國民一般ノ政府ニ對スル監督權及否認權ヲ規定スルコトニヨツテ、政府が國民ノ自由ナル意志ノ表示ニヨツテ決定サレ且支持サレルコトヲ保障シタ。カクテ君主制的天皇制ト共和制の大統領制トノ本質ヲ共ニ生カシツツ、一方ヲ國家統一ノ理想的道義ノ中心トシ他方ヲ實際的政治ノ中心ト

スル新國家体制ヲ確立セントシタ。之ヲ以テ日本ニ於テ東亞文化ノ融合統一トイフ。現在ノ傾向ト將來ノ使命ニ應ズル最適ノ國家杆構デハナイカト思フ。又之ハ附屬文才ニ示ス如ク我國ノ歴史ニ照シテモ何等國体ト抵触スルコトナク、寧ロ歴史ノ現段階ニ於テ我國皇位ノ特色ヲ最モヨク發揮シ得ルモノト考ヘラレルデアアル。

③ 從來皇室典範ニ含マレテ井々皇位繼承及踐祚ニ關スル規定ヲ憲法ノ中ニ取入レ、國体

Kyoto University



此、稿、
証、

④ 当然憲法ノ冒頭ニ明記サルベキ條項デアル。
 ④ 我國ノ本來徳ヲ以テ立テ和ヲ以テ本トナス
 ベキ國柄デアリ、明治維新於テ國家生存
 ノ才ヲ必要ニ迫ラレテ採用シテ近代ノ
 ツパの強國策ニ基ク权力的侵略主義如何
 ナル美名ノ下ニ於テモ我國ノ本來及東洋ノ
 政治思想ニ叛ケル邪道デアツテ、自ラノ人
 類ニ對スル使命ヲ冒瀆セルモノデアル。趣
 意文ニモ述ベタ如ク、
 今、
 如ク、
 今、

コト元何ハ編成ハ反者ヲ余儀ナラセシメラレタ。

本質ヲ確保スルト共ニ憲法ニ對スル皇室
 典範ノ優位ヲ撤廢シタ。我國體ノ本質ハ、
 近來云ハレテ來タ如ク天皇親政ト天皇が統
 治權ノ總攬者デアリ且行使者デアルトイフ
 コトトニ存スルノテハナク、統治權ノ主体
 ガ少クトモ千五百年以上ニワタツテ一系ノ
 皇統ニ存シ現在ニ至ツテナルトイフ事實
 ニ存スルノデアリ。故ニ皇統ニヨル皇位ノ
 繼承ニ關スル規定コソ我國ニトツテ最モ根
 本的ノ意義ヲ有スル重要ナルモノデアリ。



広ク取入レソコニ真ノ世界文化ヲ形成スベ
 キ使命ヲ。何時ノ時代ヨリモ又如何ナル國
 家ニモ増シテ自覺スベキ事能ハニ當面シテ
 向本土ヲ占領サレトイフストハ西洋文化
 ノ攝取ニトツテ最モ好都合デアリ。明治以
 来ノ侵略領土返還・武装解除及軍隊ノ解散等
 ノ事實ハ種々ノ大和ノ返ルベキ好村会ノ到来
 ヲ示ス。然シ乍ラ明治以来ノ努力
 力ハ味シテ水泡ニ帰シタワケデハナク、
 爾及財國が富国強兵ノ指導者トナリ、
 列強ヲ模範トシ、近代欧米文化ヲ急速ニ取入
 レタコトハ、西洋文化ノ充分ナル攝取ノ
 メニ極好條件ヲ提供セルモ、
 家ヲ建テルニハ足場ヲ組ハカニ要ス。ト
 ルトガ建テルニハ、或程度完成スルハ取拂ハ
 レネバナラナイ。サレバ欧米文化トイフ客
 人ヲ迎へ容ルベキ家ガホツ出未上ツタ
 軍府財國トイフ近代国家建設ノ足場ガ取拂

Kyoto University



ル一切の特権ヲ撤廃セントスル立前カテ貴	族院ヲ廢シ之ニ代フルニ職能代表者ヨリ	或ル參議院ヲ以テシ衆議院ヲ之ニ對シテ	優位ナラシメタ。	⑨ 議会同会中ハ常置委員会ヲ置キ議會ノ職責	ヲ准行セシムルヤウニシテ審議期間ノ短キ	ヲ補フコトニシタ。	⑩ 樞密顧問ハ從來ノ天皇制悪用ノ事實ニ鑑ミ	當然ノ措置トシテ撤廢シ大権事項ノ徹底	的縮少ニ伴ヒ大イニ輕減サレタソノ職責ヲ	皇室會議ニ委ネルコトニシタ。	⑪ 司法権ハ政府ノ委任ニヨツテ獨立ニ行ハレ	最高司法村園ヲ大審院トシ大審院長ハ公	選トシタ。	⑫ 會計ニ關シテ高野氏等ノ民間憲法研究会	ニヨリ発表サレタ案ヲ全面的ニ採用シタ。	⑬ 憲法ノ改正ニ關シテハ民意ヲ充分ニ採用シ	得ルヤウ細心ノ配慮ヲ行ツタ。	⑭ 憲法ノ各條項ヲ通ジテ政府ノ憲法改正草案	トシテ発表サレタモノニ於テ廢止ヲ表明サ
---------------------	--------------------	--------------------	----------	-----------------------	---------------------	-----------	-----------------------	--------------------	---------------------	----------------	-----------------------	--------------------	-------	----------------------	---------------------	-----------------------	----------------	-----------------------	---------------------



レタ條項ハ總テ削除シタ。

(四) 新皇室典範草案ノ立場

① 皇族ナル名稱ヲ廢シ、王・王妃・女王ヲ臣籍ニ編入シ、ソレ以外ノ皇族及天皇ヲ皇室ト稱スルゴトニシタ。皇族トイフ名稱ニマツワル私的因襲的ノ觀念ヲ廢シ、統治権ノ主体タル天皇ノ母胎トシテノ公明ノ國家的意義トソノ實トヲ皇室ナル名稱ニヨツテ表サントシタ次ヲテアル。

② 皇族會議ハ皇室會議ト改稱シ、ソノ成員ハ

男女ノ如何ヲ向ハヌコトニシタ。尚樞密廳向ノ撤廢ニ伴ヒソノ職責ヲ受理スルコトトナツタタメ、ソノ重要性ノ増加ニ鑑ミテ天皇ノ御親臨ヲ原則トシ且參列者ノ範圍ニ幅ヲモタセルコトニシタ。皇室ノ中堅タル方々が軍務ヨリ解放サレタ今日、皇室會議ハ一層充實シウル可能性ガアリ又ソノヤウニ努力セラレルコトガ望マシイ。

③ 憲法ニ於テ天皇ハ統治権ノ行使ヲ一切政府



ニ委任セラレ侍親ラ實際ノ政治ニハ携ハラ
 レ又コトニ規定サレタノデ、攝政ヲ立テル
 コトハ事實上不必要トナツタカウ之ニ關ス
 ル一切ノ規定ヲ削除シ、ソノ代リニ讓位ノ
 規定ヲ設ケタ。

附屬文才ニ 日本憲法改正ニ關スル

諸説ノ批判

日本憲法ノ改正案トシテ昨年来現在連聲表

(一) 一九四六年二月二日 松本國務相ヲ主任トシテ

ノ八 (4) 政府ノ憲法改正委員會ノ案 (四) 故近

衛公ト佐々木博士トノ協力ニ成ル内大臣府ノ

案 (四) 自由黨ノ案 (三) 進歩黨ノ案 (ホ) 弁護士

會ノ案 (イ) 高野氏等民間有志ニヨリ組織サレ

ル憲法研究会ノ案 (ウ) 共產黨ノ新憲法骨子等

テPル。 約ハ以下ニ於テ之等ノ諸説ニ對シ批

(イ) 社會黨案批判ノ案



判ヲ加ヘツツ自ラノ立場ヲ一層明カニシタイ
 ト思フ
 (4) 松本松本
 取有案を批判
 ① 第一條ヨリ才四條迄ノ規定ヲ変更セズト
 主張シ、ソノ理由トシテ、「第一條カラ才四
 條ハ吾國ノ根本法ヲ規定セルモノデ、万世一
 系ノ天皇コレヲ統治シ皇窮ニ至ルナキ君主
 制ヲ明言シ、統治権ハ天皇コレヲ總攬遊遊中
 シルコトヲ示シテナルト述ベテ牛ルガ
 ソレハ政府ノ意見ガ所謂「神勅」ニ論據ヲオ
 イテ牛ルコトヲ曖昧ニ表明シタモノノ如ク
 ニ思ハレ、シカモ才一條乃至才四條ニ於ケ
 ル天皇親政ノ規定ガ我國ノ根本法デアルト
 イフ断定ハ所屬文才三ニ示ス如ク全然実証
 的根據ヲ缺クモノデアル。而シテ統治権ニ
 關スル斯様ナ意見ガ未ダ改メラレナイトス
 レバ、三國外相会谈ニ關スル共同「コンミユ
 ニケ」ニ示サレタ日本憲法変革上ノ示標ヲ明
 カニ無視スルコトニナルデアラウ。之ヲ要
 スルニ政府ノ統治権ニ關スル意見ハ才一

Kyoto University



ニモソレ以上ノ推察ノ如ク国体ノ由来
 ヲ神代史ニ求メントシテ平ルノナラバ新年
 初當ニ示サレタ御聖旨ニ反シテラリ。才ニ
 ニソノ論據ガ実証性ヲ缺イテラリ。才三ニ
 ソノ論點ガ現在世界人類ノ指導理念ヲ代表
 スル聯合諸國ノ意見ニ反シテ平ル。トイフ
 諸美カラ抜本的修正ヲ要スルモノデアル。
 ②皇室典範中ノ皇位繼承法掃政法ノ重要規定
 ハコシテ憲法ニ掲ガベシトノ意見ハ根據不
 明デアルガ各當ナ考ヘダト思フ。然レ乍ラ

和案ノ立場ニ於テハ掃政法ノ規定ハ無用ト
 考ヘラレル。
 ③才九、十一、十二、三十、三十一、七十一、等ノ各條
 ノ廢止、才十三條及才二十二條乃至才二十
 九條ノ改正。議會ノ常置委員會ノ設置。國
 務大臣ノ議會ニ對スル責任ノ規定。及大臣訴
 追制度ノ設定等ハスベテ賛成デアルガ、貴
 族院及枢密院ノ廢止ガ表明サレテ平ナイノ
 ハ不徹底ノ様ニ思ハレル。

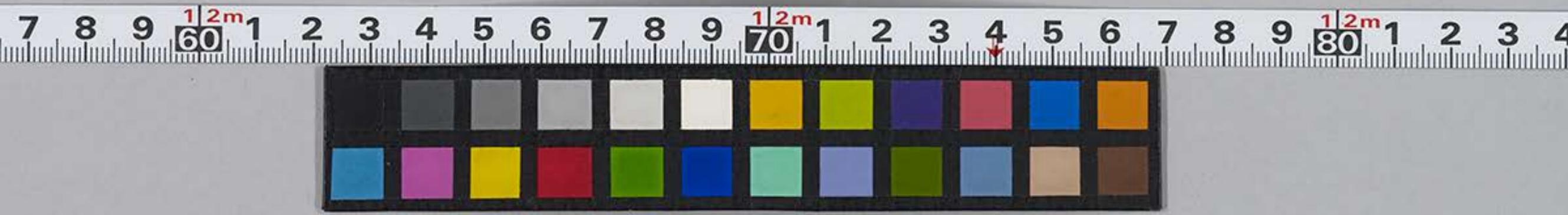


(四) 内大臣府案批判

① 天皇ハ統治権ノ總攬者デアリ同時ニ行使者
 デアルト主張シ、天皇親政ヲ固持スル莫ニ於
 テハ政府案ト一致シテ牛ルガ統治権ノ行
 使ニ關シソレガ不民ノ翼賛ニヨルベキコト
 ヲ明記スル新條文ヲ設ケントスル莫ニ於テ
 政府案ト僅カノ隔リヲ有シテキルシカシ
 五十歩百歩トイフベク、ソノ不徹底ハ否メ
 十イ。

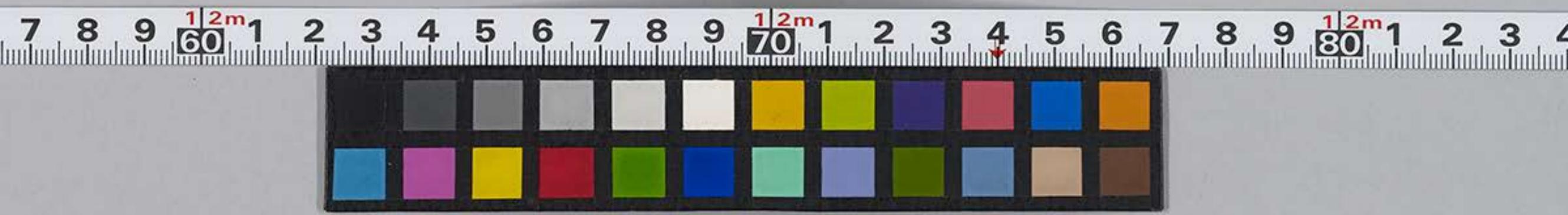
② 軍ノ統帥ニ關シテ何等カノ規定ヲ設ケント

スルコトハ、吾々ノ立場カラスレバ不徹底
 ト思ハレル。吾々ハ附屬文第一ノ(4)ニ
 於テ述ベク如ク、我國ノ本来ニ立返リ現在ノ
 世界史的使命ヲ自覚シテ新平和国家体制ノ
 確立ニ邁進スルト共ニ、原素子「エネルギー」
 ノ利用ノ可能トナツタ現在ニ於テ國際戰闘
 ノ消滅ヲ確信ス。戰戰ノ結果武器ヲ除カレ
 軍隊ヲ解消セシメラレタコトハ新シキ世界
 最先進國タルベキ天与ノ資格デアルト自
 覺シ、コノ資格ハゾウ易カト失ハナイヤウ



① 統治権ノ主体ハ国家デアルト主張スル莫ニ
 於テ一見政府案及内大臣府案ト異ルカヤ
 ウデアルガ、立憲君主制ヲ固持シ天皇親政
 ヲ立前トスル限リニ於テ事实上何等之等ト
 異ルモ、テハナシ。君主制ヲ主張スル以上、
 統治権ノ主体が国家ニアルカ君主ニアルカト
 イフコトハ憲法解釈上ハ理論的尙題タルニ止
 リ、現在ハ状況カテ推セバ或ハ單ニ表現上
 尙題ニ本末ナシ、力モ知シナシ。要スルニ政
 府案ハ一條乃至第四條ニ一切手ヲ触レズ、

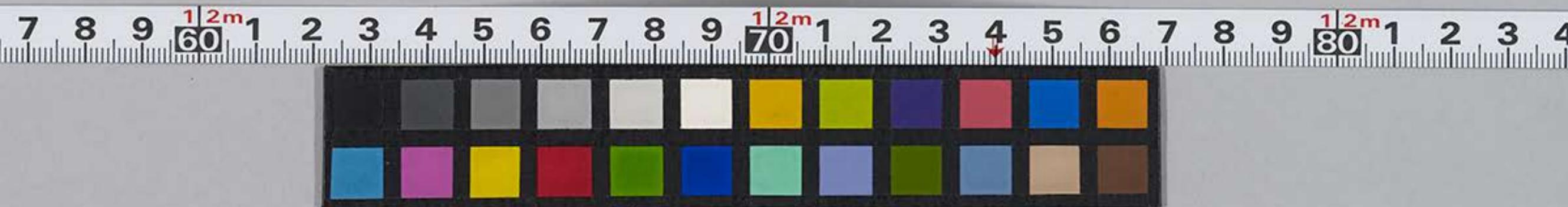
(ii) 自由党案批判
 ③ 緊急勅令ハ常置審議會ノ諮問ヲ經ベシトス
 ル意見、議院ノ國務大臣ニ対スル訴追権ハ
 規定、枢密院ノ廃止、衆議院ノ予算先議権
 ノ尊重、前年度予算踏襲規定ノ修正、憲法
 改正手續ニ關スル意見等ハ概ネ賛成デアル。
 宣戰媾和戒嚴等ニ關スル規定モ不必要ト考
 へル。
 二努力スベキデアルト考ヘテ平ル。サレバ



② 内閣総理大臣ノ他ノ國務大臣ニ對スル地位ノ優越ヲ明確ニ定ムル意見ハ政治ノ民主化ニ伴ツテ必然的ニ要求サルベキ事柄ナリ、大権事項ノ削減ト相俟ツテ之ヲ徹底セバ当然私案ノ如キ結論ニ到達スルヲ望ム。

③ 現行憲法ニオケル諸大権事項ノ廢止、貴族院ニ代ルベキ參議院ノ新設及衆議院ノ參議院ニ對スル優位、國務大臣ノ議會ニ對スル責任ノ明確化、樞密顧問ノ廢止、司法權ノ獨立強化、行政裁判所ノ廢止、大審院長會計検査院長ノ任命方式、憲法改正ノ手續等ニ關スル意見ハ概テ贊成ナリ。

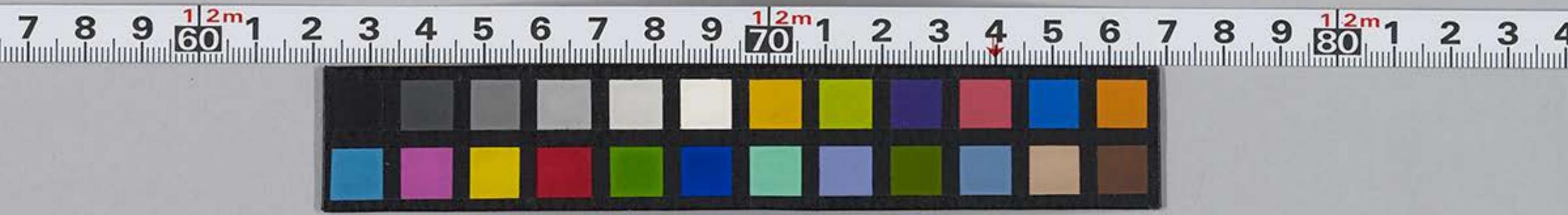
(二) 進歩黨ノ案批判
 本案ノ大綱ハ内閣府案ト略々同一ナリ



③ 貴族院ノ改組 常置委員ノ設置 樞密顧問
 廢止 華族制度ノ廢止 禪位等ニ関スル
 意見ハ全ク賛成デアルガ、内閣制度及司法
 院ノ積極性ヲ感ジサセル。

④ 大、権事項ノ大幅制限ヲ主張シ、国民投票制
 ノ採用及立法ニ對スル議會权限ノ強化ニヨ
 ル国民參政權ノ拡張ヲ計リ、以テ民主政治
 ノ實ヲ擧ゲントスル莫ハ以上ノ諸案ニ一歩
 勝ル積極性ヲ感ジサセル。

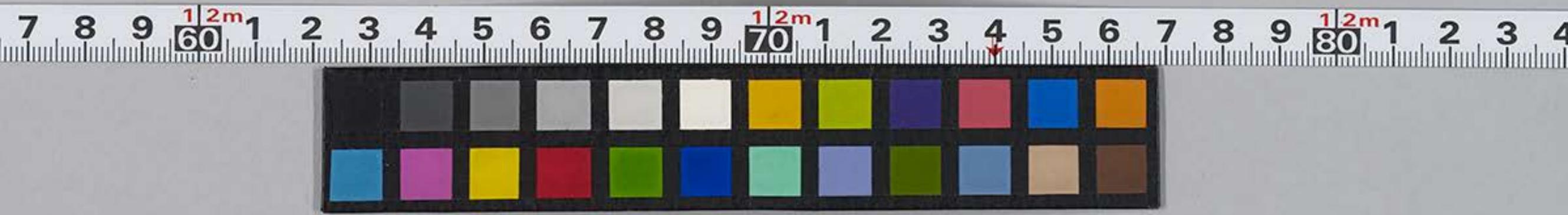
① 統治權ニ關スル意見ハ以上ニ批判シ来ツタ
 諸案ト根本ニ於テハ同一ノヤウデアル。統
 治權ノ主体ニ關スル明確ナ表現ヲ缺イテ平
 ルガ、立憲君主制ノモトニ於ケル天皇親政
 (本) 弁護士会案批判
 細目ニ關シテハ自由黨案ヲハジメ既出
 諸案ヲ取捨セル取跡が見エル。之ニ對スル
 批判ハ内大臣府案及自由黨案ノ批判ニ於テ
 ホシ盡クサレテナルト思フ。



社会党憲法論

① 統治権ト主権トノ區別及主権在國家説ノ可
 否ハ理論的討究ニ委ネテ暫ク向ハズ。コノ
 案ノ統治権及主権ニ關スル意見ヲ検討スル
 ニ結論ニオイトハ極メテ吾々ノ意見ニ接近
 シテナルヤウニ思ハレル。コノ案ハ主権在
 國家説ヲ主張シ立憲君主制ヲ採用スル莫ニ
 於テ自由黨案ト軌ヲ一ニスルが、大権ヲ大
 幅ニ制限シ實質上天皇ハ精神の意義ノミヲ
 存置ルスコトニヨツテ從來ノ天皇親政ノ理

表明サレテキル。曰ク「原則論ハ共和制テ
 アリ、当面ノ實現サレル適切ノ範圍テ取敢
 ヘズ國家形態ハ一時的ニモ一切ノ權力ヲナ
 クシテ天皇制ヲ存續サセテ國民的感情トシ
 テ共和制的色彩ノ強イ議會制度ヲトルコト
 ニシタト。苟クモ國家ノ將來ヲ決定スベキ
 憲法ニ對シカ、ル暫定的態度ヲ以テ臨ミコ
 トハ絶対ニ反對デアル。殊ニ國體ニ關シテ
 實ハアアデナケレバナラナイハ、ガが仕方ナ
 クコウ決ムル等トイフ不徹底ノ態度ハ許サ



念ニ大キナ修正ヲ加ヘテナル莫ハ注目スベ
キデアラウ。然レ乍ラアクマテモ従来ノ立
憲君主制ノモトニオケル天皇親政ノ單ナル
修正ニトドマリ、新レキ國家理念ニ立脚セ
ル新憲法トハ云ヒ難シ。ソレハ國家ノ新理
念ニ勦カサレ現在ノ輿論ヲ着實ニ反映シテ
中ルヤウテアルガ、コノ理念ヲ明確ニ把握
シテ申ルモ、トハ云ヘテ。

② 細目ノ批判ハ他ノ諸案ノ批判ヲ參照サレタ

裁判所ノ擴張ニ關シテハ、議會ノ政府及
官廳ニ對スル訴追制度ヲ設ケ且國民が議會
ニ對シテ請願及建議ヲナシ得ル如ク規定ス
レバ行政中國民ハ行政裁判所ノ裁判ニ關シ
議會ヲ通ジテ公訴シラルコトトナリ行政裁
判ノ公正化ヲ促シ得ルノデハナイカト思ハ
レ。

① 民向憲法研究会案批判
コノ案ノ根本的ノ立場ハ次ノ言葉ニヨツテ

表明サレテキル。日ク「原則論ハ共和制ヲ
アリ、當面ノ實現サレル通切ノ範圍ヲ取敢
ヘテ國家形態ハ一時的ニモ一切ノ權力ヲ
クシテ天皇制ヲ存續サセテ國民的感情トシ



表明サレテキル。曰ク「原則論ハ共和制ヲ
 アリ、当面ノ實現サレルニ適切ナ範圍ヲ取敢
 ヘ、國家形態ハ一時的ニモ一切ノ權力ヲナ
 クシテ天皇制ヲ存續サセテ國民的感情トシ
 テ共和制的色彩ノ強イ議會制度ヲトルコト
 ニシタト。苟クモ國家ノ將來ヲ決定スベキ
 憲法ニ對シカ、ル暫定的態度ヲ以テ臨ムコ
 トハ絶対ニ反對デアル。殊ニ國體ニ關シテ
 實ハアアデナケレバナラナイハ、ガガ任方ナ
 クコウ決ムル等トイフ不徹底ナ態度ハ許サ

① (H) 民向憲法研究会案批判

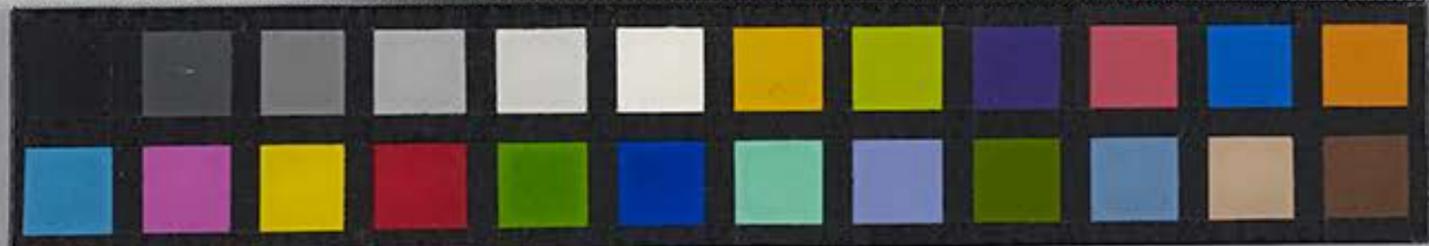
① コノ案ノ根本的ナ立場ハ次ノ言葉ニヨツテ
 判ノ公正化ヲ促シ得ルノデハナイカト思ハ
 レル。
 議會ヲ通ジテ公訴シラルコトトナリ行政裁
 官廳ニ對スル訴追制度ヲ設ケ且國民が議會
 ニ對シテ請願及建議ヲナシ得ル如ク規定ス
 レバ行政中國民ハ行政裁判所ノ裁判ニ關シ
 議會ヲ通ジテ公訴シラルコトトナリ行政裁
 官廳ニ對スル訴追制度ヲ設ケ且國民が議會
 ニ對シテ請願及建議ヲナシ得ル如ク規定ス
 レル。

②

細目ノ批判ハ他ノ諸案ノ批判ヲ參照サレタ
 シテ申ルモトハ云ヘテイ。



国家ノ有為転変ノ歴史ハ
 今ニ不変ナル國体ノ本質ヲ和火
 当而シテ
 世界狀況ニ照シテ國家ノ世界史的使命ヲ自覺
 シ以テ一道ヲ選ガノガ憲法ノ改正トイフ
 政ニ於テ現在吾々ニ与ヘラレテナル重要課
 題ヲナル。吾々ハスノ眞劍ナル課題ニ對シ
 テ曖昧ナル態度ヲナスコトハ許サレナイ。
 原則論が共和制ナルノナラドウシテ断乎
 天皇制ヲ廢シ大統領ノ選出ヲ決定シナイノ
 カ。取敢ヘズ等ト逃口上ヲ設ケズニ高野代
 私案ノ如ク大統領ノ選出ヲ堂々ト主張シテ
 ハ如何。夫皇制ヲ存置スルノナラアクマデ
 モ國体ハ君主制ヲナケレバナラズ。モシ君
 主制ヲ選ガトスレバ君主ハ事實上統治権ノ
 主体タルベキデアリ。之ニ對シ「精々自
 由黨案ノ如キ國家主体説ガソノ理論的解釈
 トシテ成立ツニスギナイ。サレバ天皇制ト
 イフ言葉ニヨツテ君主制ノカテゴリト脱
 スル何物カヲ勝手ニ想定スルノデナケレバ
 天皇制ノモトニオケル主権在民説ハ当然鵠



的存在ヲラザルヲ得ナイ訣デアル。コノ案
 ニオイテ天皇ト國民、内閣、議會及憲法トノ関
 係が全然示サレテキナイノハマコトニ奇怪
 至極ナコトデアルガ、斯様ナ關係ヲ辿ツテ
 行ケバ当然鶴ノ正体が暴露サレネバナラナ
 イノデソレハ賢明ナル保身策トモ考ヘラレ
 ル。要スルニコノ案ハ混乱セル立場ニオケ
 ル混乱セル意思ノ羅列トシカ細ニハ考ヘラ
 レナイノデアル。宜シク一心決定以テ兩出
 発セラレシムコトヲ希望スル。

② 國民ノ権利ヲ拡張保障シ、労働ヲ強調セル
 莫ハ賛成デアルガ、栄典ノ全廢ハ國民性ニ
 鑑ミ人間ノ本性ニ照シテ必シモ妥当トハ思
 ハレナイ。國家的栄典ヲ存スルコト自体ハ
 何等民主々義ト抵触スル性質ノモノデア
 十ク、タダ如何ナル栄典ヲ如何ナル方式ニ於
 テ規定シ授与スルカトイフコトガ問題ナ
 デアラウト私ハ考ヘル。

③ 議會ニ對シ政府及官吏訴追ノ权限ヲ認メ
 コト、貴族院ヲ廢シ之ニ代フルニ各職能及



階層ハ代表者ヨリ成ル議院ヲ以テシタコト
 等ハ全ク賛成デアル。

④ 總理大臣ハ兩院議長ノ推薦ニヨリ決込トサ
 レテナルガ、大統領ノ選出迄考ヘテ見タト
 イフ人々ガドウレテ總理大臣ノ公選ニ迄考
 ヘ及バナカツタカガ私ニハ不思議ニ思ハレ
 テナラナイ。兩院議長ハ一見國民ノ代表者
 タル議員ヲ更ニ代表スル者トシテ恰モ國民
 全体ノ意見ヲ代表シテ平ルカノ様デハアル
 ガ、過去ノ事實及事柄ノ本質ヨリスル將來
 ノ可能性ニ鑑ミテカ、ル考ヘハ妥當デハナ
 ク、トソレ故ニ新様ナ制度ハ眞ニ民主的トハ
 云ヒ難イ。

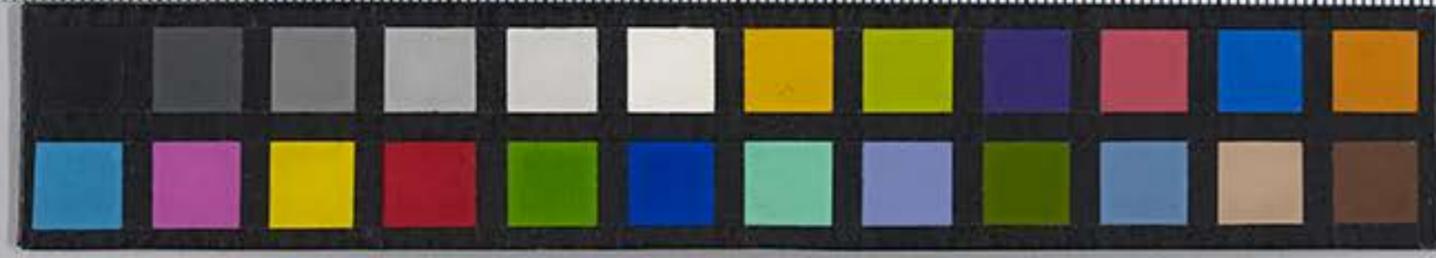
⑤ 司法及會計ニ關スル規定ニハ良イ意見ガ多
 々見受ケラレ大イニ教ヘラレル所ガアツタ。

⑥ 經濟規定ハ國民ノ權利義務ノ規定ニ含メ、
 或ハ法律ニ委ネ、モシクハ國民自体ノ自覺
 ニ俟ツベキモノガ多イヤウニ思ハレル。經
 濟現象ハソレ自体ノ法則ニ從フ獨自ノ動態
 ヲ示シ、ソレ故ニ國家統治ノ大綱ヲ規定シ

④ 總理大臣ハ兩院議長ノ推薦ニヨリ決込トサ
 レテナルガ、大統領ノ選出迄考ヘテ見タト
 イフ人々ガドウレテ總理大臣ノ公選ニ迄考
 ヘ及バナカツタカガ私ニハ不思議ニ思ハレ
 テナラナイ。兩院議長ハ一見國民ノ代表者
 タル議員ヲ更ニ代表スル者トシテ恰モ國民
 全体ノ意見ヲ代表シテ平ルカノ様デハアル
 ガ、過去ノ事實及事柄ノ本質ヨリスル將來
 ノ可能性ニ鑑ミテカ、ル考ヘハ妥當デハナ
 ク、トソレ故ニ新様ナ制度ハ眞ニ民主的トハ
 云ヒ難イ。

⑤ 司法及會計ニ關スル規定ニハ良イ意見ガ多
 々見受ケラレ大イニ教ヘラレル所ガアツタ。

⑥ 經濟規定ハ國民ノ權利義務ノ規定ニ含メ、
 或ハ法律ニ委ネ、モシクハ國民自体ノ自覺
 ニ俟ツベキモノガ多イヤウニ思ハレル。經
 濟現象ハソレ自体ノ法則ニ從フ獨自ノ動態
 ヲ示シ、ソレ故ニ國家統治ノ大綱ヲ規定シ



ハ、十位。サレバ、コノ案ハ政府案ト相対シテ
 両極端ヲナスモノデアリ。内大臣府案、進歩
 党案、自由党案、并護憲士会案、憲法研究会案等
 ハ夫々民主的的色彩ノ濃淡ヲ示シツツ兩者ノ
 中間ニ介在シテナル訳デアル。而シテ之等
 ノ中間介在案ハ一種ノ混合物デアリ。要スルニ大局
 スレバ所謂總的存在トナリ、要スルニ大局
 コリ兩極端ヲ包攝シテ夫々ノ長所ヲ生カシ
 以テ我々ノ党面シテ平比ノ史的課題ノ解決
 ヲ志ストイフヤウナ深イ根柢ニ基クモノト

ソウデアルガ、セメテ之程ノ徹底性ヲ示シ
 テホシイモノデアル。

(4) 共産党案批判

① 主権在民説ハ党ノ綱領ニ由来スル当然ノ帰
 結デアリ。コノ真憲法研究会ノ案等ニ見ラ
 レル不徹底ハ微塵モナシ。ソレハ明カニ君
 主制ヲ廢シ端的ニ共和制ヲ主張スルモノデ
 アル。コノ真野坂氏帰朝以來ノ皇室ニ対ス
 ル党ノ意見ト雖モ何等之ト抵触スルモノデ



ハ思ハレナシ。シカモモ之等ノ諸案ニ対シ
 テ少クトモ徹底セル立場ヲ有スル共産党及
 政府ノ案ヲ検討シテ見ルニ、前者ノ天皇制
 廢止ノ主張及後者ノ天皇親政ノ固執ガ夫々
 既成ノ厂史觀社會觀モシクハ旧来ノ辟見ニ
 トラワレタ現世界狀況及我國ノ厂史ニ対ス
 ル認識不足ニ由来スルモノデアルユトカ解
 ル。我々ハ「アジア大陸ノ東岸ニ连接シ太平
 洋ヲ隔テ、ヨロツパノ新天地「アメリカ大
 陸ニ対シテキルトイフ地理的條件ニ基イテ、

海上交通未發達ノ時代ニ對シテ「東南「西
 ア大陸ノ影響ヲ受ケ易ク海上交通ガ急速ニ
 發展シツ、アル近來及將來ニ於テハ「アメリ
 カ大陸ノ影響ヲ最も受容レヤスイ事情ニ
 ル我國ノ特性ヲ理解シ、附屬文才ニ示ス
 如キ國史ノ事實ト趣意文ニ述ベタ様ナ現在
 ノ世界狀況トニ鑑ミテ慎重ニ自國ノ国家存
 続ヲ決定シナケレバナラナイ。私ハ人民ノ
 不幸ヲ救ハントシテ専力ニ挑ミ純理ノタメ
 ニ一身ヲ捧ゲ来ツタ黨員達ノ崇高ナル人格

Kyoto University



ト透徹セル思索カトニ対シテ深ク尊敬ノ念ヲ懷クモノデアアル。願クハ法執ヲ去リ梓ニ随ツテ法ヲ説クノ深智ヲ示サレンコトヲ。

② 政府ノ成員ヲ悉ク議會ガ選挙スルノト、政府ノ首班ヲ公選シ之ニヨツテ各省大臣ヲ決定セシムルノト何レガ国政運用上妥当デアルカ速カニ決定シ得ナイガ、私ハ後者ノ立場ヲトル。

③ 政府ノ議會ニ対シ議會ノ國民ニ対スル責任制度ノ規定ハ主權在民及議會ノ主權管理ノ

根本理念ヨモトツク当然ノ帰結デアリ。ソノ限リニ於テ論據ニ對シテ反對デアルガコノ結論及趣旨ハ賛成デアリ。

④ 人民ノ權利保障及差別撤廃ハ全ク賛成デア



附屬文才三 日本執政史草案

(4) 大臣、大連ノ制

南化以前ハ史実不詳ナルガラ省略スル。

(4) 大臣、大連ノ制 P.49 48

コノ制ハ成務ヨリ皇祖ニ至ルニ四代約三〇

〇年間(那珂博士ノ「上世紀考」ノ説ニ從ヒテ

推定セリ)ニワタツテ行ハレタモト考ハラ

レル。公卿補任(國史大系才五三卷)ニヨレバ

大臣ハ成務ノ時代ノ武内宿禰ヨリ皇祖ノ時

代ノ蘇我蝦夷迄。大連ハ仲哀ノ時代ノ大

伴健持(清リ用明ノ時代ノ物部守屋ニ至ル迄)

各々七代ノ間續クテ居リ。大臣ハ許縣男(天

除キス)バテ居元天皇ノ時子ト稱セラレ武内

宿禰ノ一統ニヨツテ承ケ継ガレタノニ對シ。

大連ハ神別代族タル大伴物部ノ兩統ニヨツテ

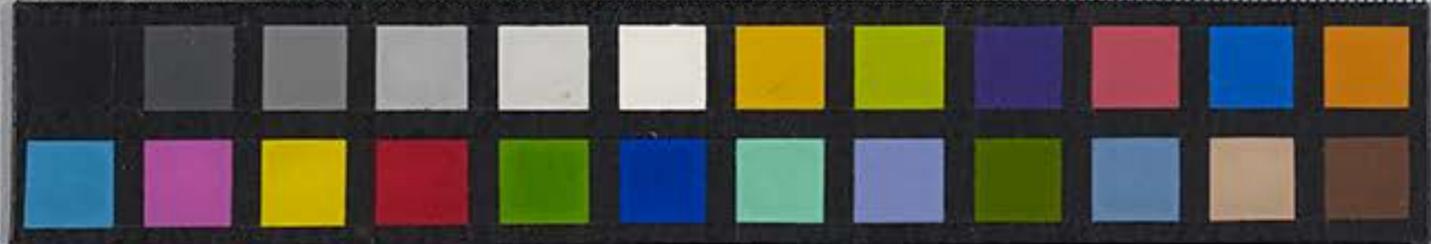
繼承セラレテリ。コノ大臣ト大連トノ關係

ハ怡毛德川時代ニオケル譜代ト外様トノ關係

ノ如クテアツタ様ニ思ハレル。予テヨリ萌シ

テオク兩若ノ對立ハ佛教ノ位來ヲメガツテ蘇

我物部ノ暗斗トナリ。推古ノ攝政聖德太子ハ



蘇我ヲ援ケテ物部ヲ廢シ共ニ興佛ノコトニ當
 ラレ。孝德ノ太子中大兄皇子ハ中臣鎌子ト相
 謀ツテ蘇我氏ヲ挫キ改新ノ業ヲ起サレタ。成
 務ノ弟代ニ武内宿禰ヲ大臣トナシヲ起シ諸制ヲ整ヘテ
 レテ以來宿禰ノ子孫相次イテ大臣トナリ
 代ニ親シク仕ハ奉クテト同様ニ孝德ノ
 弟時改新ノ業ヲ輔翼セル鎌子ノ子孫ハ藤原ノ
 代ヲ賜フテ末永ク朝政ニ參與ス。成務ノ弟
 代ニ先行南化ニシテスル崇神皇仁景行ノ三代ハ国内統一
 進行期ヲアツテ、四道將軍ヲリ日本武尊ニ

及バ逆賊征討ノ業 皇祖神ヲ祭祀シ有記シ天
 社國ヲ神地神戶ヲ定メラレタ事 課税課役ヲ
 行ヒ船船ヲ作ラシメ又埴輪ニヨツテ殉死ノ弊
 ヲ改メラレシ事 弊諸々ノ云ヒ伝ヘテ残シテ
 本ルガ 成務ノ三代ノ大業ノ後ヲ承ケテ
 成務ノ弟代ニハ中央地方ノ諸制度ガ整備サレ
 タ。用明及孝德ノ弟代ニ物部蘇我ノ旧勢力ガ
 丈々聖德中大兄ノ兩太子ニヨツテ打倒サレ。中
 臣鎌子ノ協力ヲ俟ツテ改新ノ大業ガ成就サレ
 タト同様ニ、崇神皇仁景行ノ三代ニオケル

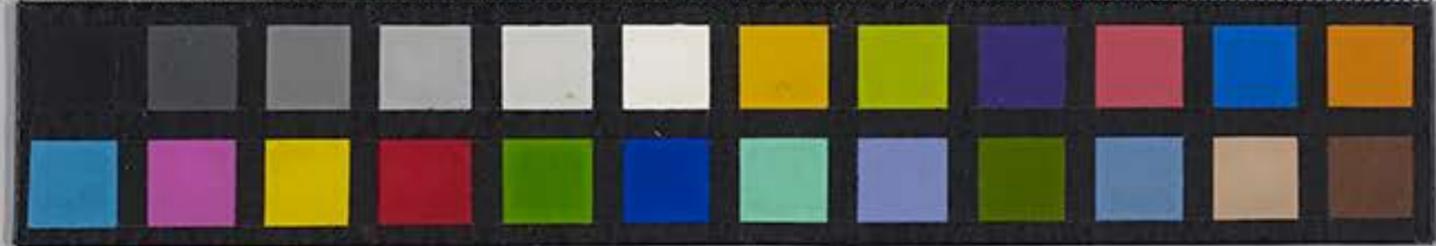
Kyoto University



大彦命日本武尊等ノ皇子ヲ中心トスル地方ノ
 逆賊征討、後ニ武内宿禰ノ輔翼ヲ得テ成務統
 國ノ大業ハ行ハレタノデアリ。成務ノ時代ハ
 國家統制ノ基準ガ困難ヨリ理性ニ転ジ私的ヨ
 リ公的ニ展開セル莫ニ於テ大化ノ改新ニ通ヅ
 ル革新ノ氣運ヲ孕ンデヲリ。ソユニ生誕セル
 大臣ノ制ハ孝徳ノ時代ニ之ニ代ツテ現レタ在
 左大臣ノ制及天智ノ時代ニ現レタ太政大臣ノ
 制ト并ニ政治ノ公明化乃至合理化ノ過程ヲ示
 スモノト考ヘラレル。

崇神ノ時代ニ群卿ニ詔シ大彦命及ソノ皇子
 武瀧川別等ノ四名ヲ選バシメ將軍トシテ四方
 ニ遣テ給ヌ。又此等ノ記録ガあり。次デ皇代ノ
 時代及ハ武瀧川別及崇神ノ時代ニ大彦命ノ英
 武武壇安彦ノ謀反ヲ治メテ彦國葺等ノ勲業
 ニ詔シ神祇ノ祭祀ヲ次スル給ヌ。トイフ記録
 ガあり事ガ記サレテナルガ。之ニヨツテ天業
 經綸ニ功績ノアツテ諸臣ガ群卿ヨリ五大丈ハ
 ト次才ニ重用ノ道ヲ辿ツテ様子が推察セラレ、
 次ノ景行ノ時代ニ武内宿禰ガ標梁之臣ト稱セ

Kyoto University



ラレタトイフ記録ハ大臣ノ制度ノ前段階ヲ示
スモトトシテ注意セラルベキイナル。

④太政大臣・攝關ノ制

コノ制ハ欽ウハ孝徳ヨリ白河ニ至ル三七代
約四四〇年間 広クハ院政ノ行ハレタテ攝關ヨ
リ後鳥羽ニ至ル白河鳥羽後白河三法皇ノ時代
ヲモ含ム四七代約五五〇年間ソノ実ヲ察擇シ
タ。大化ノ改新ニヨリテ從來ノ大臣大連ノ制
ニ代リ左右大臣ノ制ガ設ケラレ 阿倍倉橋麿及

蘇我山田石河麿ノ兩人ガ姓メテソノ職ニ補セ

ラレテ以來 左右大臣モシクハソノ一大臣ハ

概テ缺クルコトナク 明治維新ニ至リテ

天智ノ時代ニ至ツテ近江ノ新令ニヨリ大友皇

子始メテ太政大臣ト任セラレ 高市皇子ガソノ

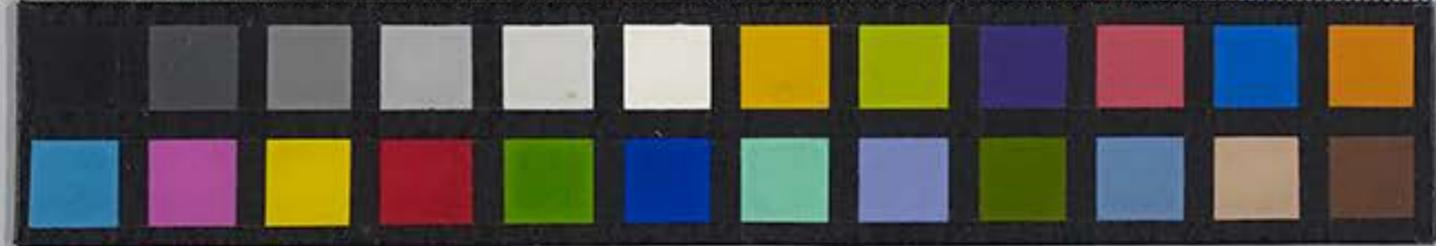
後ヲ継ガレ 文武ノ時代ニ大室令ガ制定サ

レルニ及ビ 刑部親王ハ知大政官事ノ職名ヲ帶

ビラレ、ソレヨリ聖武ノ時代、欽鹿王ニ至ル

迄皇子モシクハ皇孫四代ソノ跡ヲ襲フテ執政

ハ任ニ當ラレタ。 淳仁稱徳ノ時代ニ及ンテ皇



室補任ノ前例ヲ破リ藤原仲麿（惠美押勝）カ太政
 大臣ノ官タル大帥トセリ或ハ道鏡禪師カ太
 政大臣ニ任ゼラレタガ、之ヨリ以右文徳ノ帝
 時藤原良房カ太政大臣ニ任ゼラル迄六代九
 十年向スル官ヲ缺クニ至ツタ。聖武ノ後淳仁
 ノ前後ナル藤原及ソノ重祚タル、稱徳女帝ニ下
 ラセラレ、シカモ皇嗣ヲ缺キタタメ皇位繼承
 ニ關スル紛争ヲメグツテ當時政治ノ中心力ヲ
 形成シテオタ天武ノ諸皇子及ソノ帝子孫ノ強
 イ統一モ次オ破レ、遂ニ仲麿道鏡等ノ集ム

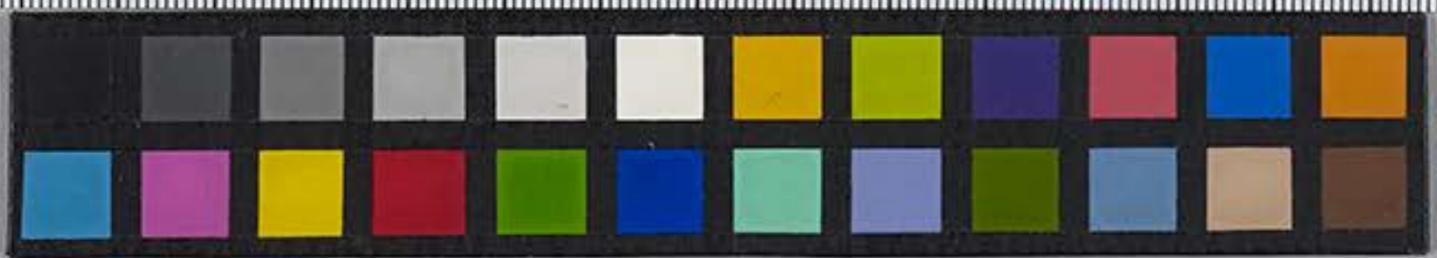
ル所トナツタ記テヤルガ、天智ノ皇胤光仁夫
 皇ノ帝即位ニ及ンデスシク太政大臣ノ職ヲ繼
 承シテ来タ天武ノ皇統モ絶エ仲麿道鏡等ヲ中
 心トスル兇奸モ概ネ清掃サレ、平安新政ノ端
 緒ガココニ開カレタ。尚太政大臣ノ長期ニワ
 タル缺官ハ以上ノ事情ニ伴フ天皇親政ノ帝意
 思ノ現レトモ考ヘラレルガ、後ニ及ンテ兩ビ
 太政大臣ヲ任ジ更ニ攝政關白ノ制サハ現レタ
 タコトヲ考ヘレバ、大臣大臣及從兼ノ太政大
 臣モレクハ知太政官事等ノ制度ヲ通ジテ見ウ



レハ執政職ノ必要性ガソレニヨリテ否定サレ
 ルモトハ思ハレトイフ。寧ろ新様ノ現象ハ、院
 政ノ場合ト同ジク、我國政治ノ^{新様}ノ^{現象}ハ、^院
 ヘル、ガ^老當^デハ^ナカ^ラウ^カ。リ^思ハ^レル^ハ。推
 古ノ^帝代ニ^聖德太子ガ^攝政ノ^職位ニ^止ツテ
 新政ヲ^施カレ、中大兄皇子ガ^孝德^有明ノ^面代
 ニ^ワタ^リ皇太子ノ^位置ニ^止ツテ^改新ノ^業ニ^当
 ラ^レタ^トイ^フ事實ハ、^武聖武天皇ガ^皇女^孝謙
 天皇ニ^帝位ヲ^讓ラ^レテ^ヨリ^薨御ノ^時ニ^至ル
 迄^國政ニ^携ハ^ラレ^シタ^メニ^梟雄^仲磨^サハ^雌

伏^キ余^儀ナ^クセ^シル^ハ。及^白河^鳥羽。
 後^白河ノ^三上^皇ガ^帝位ヲ^讓ラ^レテ^後院^ニツ
 キ^政ヲ^執リ^給ヒ^シコ^ト等^ト兼^キ、^統治^權ノ^行
 使^ニ對^シテ^何等^カノ^支障^ヲ生^ジタ^シヤ^シ。
 國^皇位ノ^特色^ヲ暗^示シ^テ、^地方^執政^職ノ^必然^性
 ヲ^裏付^ケル^モト^云ヒ^得ル^ハ。尚^推古^皇極[・]齊
 明^皇極ノ^重祚^持統^元明^元正[・]孝^謙、^統德^有明ノ^重
 祚^等ノ^女帝ノ^帝位^及重^祚ノ^事實ハ、^上ノ
 如^キ我^國皇^位ノ^特色^ヲ予^想ス^ルト^キ、^皇男^子
 孫ノ^皇位^継承^ヲ立^前ト^スル^トイ^フ考^ヘニ^對シ

Kyoto University



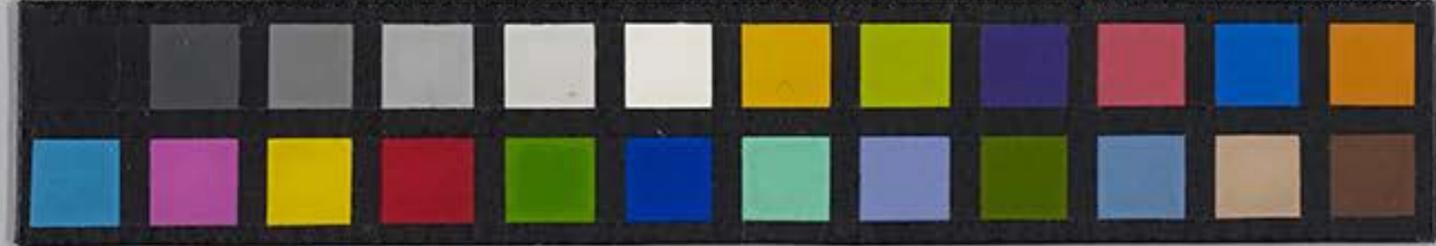
于毛矛盾十ク理解セラレ。シカモ推古ニオケル
 聖德太子、皇極ニオケル蘇我馬子、有明ニ
 オケル中大兄皇子、若狭ニオケル聖武上皇、
 新徳ニオケル道鏡、神皇正統記ノ下ニオケル
 心政治ノ実権ノ所在ヲ確ムレバ、國家非常ノ
 時ニ皇太子モシテハ上皇ガ皇位ヲ避ケテ、
 國政ニ當ラレ。普通執政ノ臣ニ國政ヲ委ネテ、
 レルヲ常トセル所以モ同ハルベク、更ニ推古
 以前皇室ノ女性ニシテ政治ノ実権ヲ掌握サレ
 或ハ皇位ノ危機ヲ救ヒ或ハ天業回縮ノ事ニ當
 ラレ、夕飯豊皇女及神功皇太后ガ共ニ天皇ト稱セ
 ラレテ、^{トイフ子}ハ^{天照ノ御孫トシテ}國皇位ノ特色ニ因ス
 ル吾々ノ推量ヲ一層確シト思ハレ。

文徳ノ時代ノ太政大臣藤原良房ハ人臣攝政ノ
 ハジメテアリ、次ノ太政大臣藤原基経ハ白
 ハジメテアリ、良房以後ニ條ノ時ノ伊
 通ニ至ル迄藤原代ガ常ニ太政大臣攝關ノ職ヲ
 籠ツテ平ル。堀河ノ時代ニ白河上皇ガ院ニテ
 政ヲ執ラレテ、以来鳥羽、後白河之ニ徹ハセ給ヒ、
 又ノ尚師實、忠實、忠通ハ等シク在任半本ニ滿テ



大シテ太政大臣ノ職ヲ辞シ。 雅実モ亦在任約
 一年半ニシテ之ヲ辞シ出家シテ叶ル。 近衛ノ
 時時ニ実行太政大臣トナリ宗輔ヲ經テ伊直長
 寛三年ニ之ヲ辞スルニ及ビ仁安二年平清盛ガ
 武人トシテ始メテコノ職ニツイタガ約三ヶ月
 ニシテ之ヲ辞シ。 聖仁安三年忠雅之ニ任ゼラ
 レテ以テ足利義滿及豊臣秀吉ノ二人ヲ除キ元
 ノ如ク藤原代之ヲ継承シ。 或ハ掃閑ヲ兼ネモ
 シクハ掃閑ト併立シ或ハ掃閑ノニ相兼ネ又ハ
 掃閑丈ノ單獨ニテ行ハレナドシテ明治維新ニ

迄及ンデナル。 近江令ニ登リテモ
 太政大臣ハ天智天皇ノ一年正月ニ大友皇
 子ヲ以テ之ヲ任ジタリテ始メトシ。 ソレハ近
 江令ニヨリ推察セラルルガ規定ハ
 明カナシ。 養老ノ職員令ニハハナシ。 職ニ関シ
 唐令ノ三師三公ノ規定ヲ取リテ同範一人儀聖
 四海經邦論道樂理陰陽無其人則闕ト記カレテ
 中ルノ一見名譽官ノ如クナリ。 公式令
 ニヨリバ政務ニ関シ責任ヲ有スル職事官トセ
 ラレテナル。 即チコノ官ハソノ文ヲ三師三公



ニトリナガラ。ソノ實ハ尚書省ヲ中心トシ三省六部ヲ壓縮セルガ如キ太政官ノ首班トセラレテナルノデアル。サレバ令集解ニモ「雖不注職掌而預規雜務不異在大臣也」ト記サレ、更ニ又光孝天皇ガ御即位後向モナク「太政大臣職掌アルヤ否ヤ」ノ事及大唐何官ニ当ルヤノ事ヲ博士達ニ勘査セシメラレタトキニ、菅原道真ハ「唯我が朝ノ令ヲ制セラルルノ意大イニ大唐ノ令條ニ乖ル。何者唐令ニテハ三師三公独リ其官ヲ掌ニシ尚書省ノ官員ニ備ハラズ。」我朝ノ

55
太政大臣ハ分掌ナシト雖モ猶太政官ノ職事ヲナス。斯レ莫ク大イニ乖レルトナス所也。ト奏上シテ并ルノ示アル。唐令ノ名譽官タル三師三公ニモ匹敵スベキ高キ要求ヲ有シツツ尚書省官トシテ實際ノ政務ヲモ掌ルベキ太政大臣ノ制コトハ、我國ノ下史ニ基キ国情ニ基エラズタル独自の制ナシテ我國皇位ノ特色ヲ由來スルモ人ト思ハレハレ執政職ノ必要性を明示スルト共ニ、他方大化改新當時ノ我國ガ隋・唐ニオツテ當時形成サレツ、アツテ東亞文化圈ノ

Kyoto University

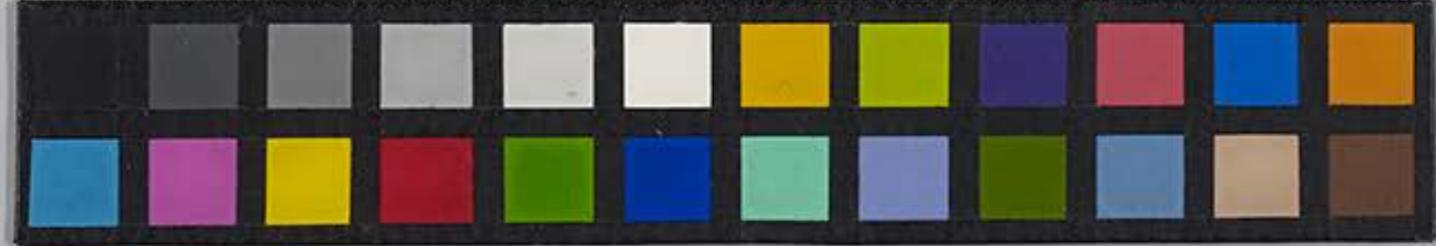


中ニアツテシカモヨク独自ノ發展ヲ示シ、
 アツタフトヲ推量セシムルノテ、尚大化
 一 改新ハソノ方向ニ於テ従来ノ氏族制度ヲ基
 礎トスル封建的國家体制ヲ改メテ國民的統一
 國家ヲ成就セシムルモノデアリ。コノ職
 一 皇室性襲補任ノ前例ガ藤原仲廣弓削道鏡ノ
 兩人ニヨツテ破ラレ、次々テ藤原代補任ノ慣
 例ガ平清盛足利義滿豊臣秀吉等ノ武人ニヨツ
 テ破ラレタノモ、コノ制度ノ本質ニ由來スルモ
 一 テハ十下カト考ヘラレル。(以上太政大臣ニ

南スル考察ハ津田博士著「上代日本ノ社会及思
 想」ニ編大改新ノ研究及史学雜誌中四八編ニ
 オケル肥後氏ノ論文「太政大臣ニ就イテ」ヲ參考
 トシタ。

(イ) 征夷大將軍ノ制
 コノ制ハ後鳥羽ヨリ存明ニ至ル四〇代約天
 七〇年ニワタツテ行ハレタ。平清盛ノ出現以
 来世ノ趨勢ハ如何トモシテ、遂ニ政治ノ実権
 ハ武士ノ掌握スル所トナリ、源賴朝ガ征夷大

治中ニおきかり武家ニウツリ、
 手



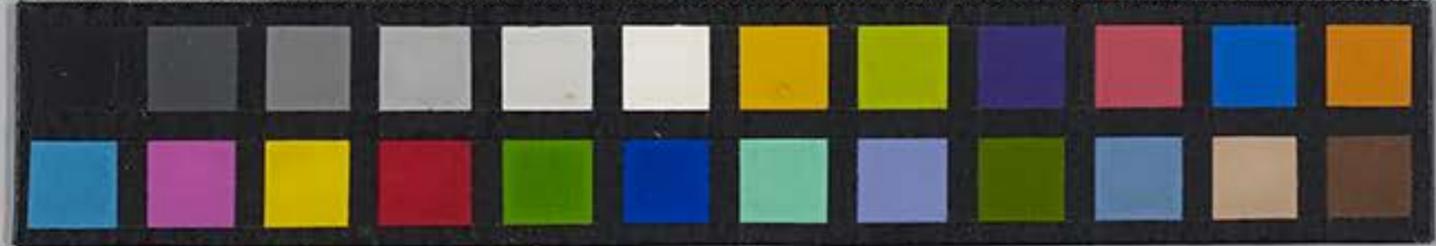
必然ノ制度トシテ、把持ノ力ヲ考ヘルカトニテ、是
 認トル莫キヲ、結論的ニシテ、愚管抄及讀史
 余論ノ意見ニ賛意ヲ表スルモ、ガヤル。

二) 新制
 明治ノ新ニ於テ、当初將軍攝政ノ旨
 内閣組織ニ二年ノ憲法發布等ヲ經テ、其憲君
 主制体漸ク整ヒ、天皇親政ノコトトシ、
 政治ノ実権ハ政府又ハ一部ノ重臣達ノ壟斷スル

萬代親裁ノ詔下リ。

年向ニ較ベテ、ソノ期間ハ最モ長シ。此ハ何
 深イ理由ヨリモ、ニ相違ナク、從來ノ如
 一約三〇〇年向、太政大臣、攝關ノ制、約五五〇
 年向、約六七〇年向、和ヲテ、大臣大連ノ制
 年向ハ、約六七〇年向、和ヲテ、大臣大連ノ制
 年向ニ較ベテ、ソノ期間ハ最モ長シ。此ハ何
 深イ理由ヨリモ、ニ相違ナク、從來ノ如
 一約三〇〇年向、太政大臣、攝關ノ制、約五五〇
 年向、約六七〇年向、和ヲテ、大臣大連ノ制
 年向ハ、約六七〇年向、和ヲテ、大臣大連ノ制

明治ノ新ニ於テ、当初將軍攝政ノ旨
 内閣組織ニ二年ノ憲法發布等ヲ經テ、其憲君
 主制体漸ク整ヒ、天皇親政ノコトトシ、
 政治ノ実権ハ政府又ハ一部ノ重臣達ノ壟斷スル



GHQ
Military Government
Soldiers Welfare Government Sect

8th Army

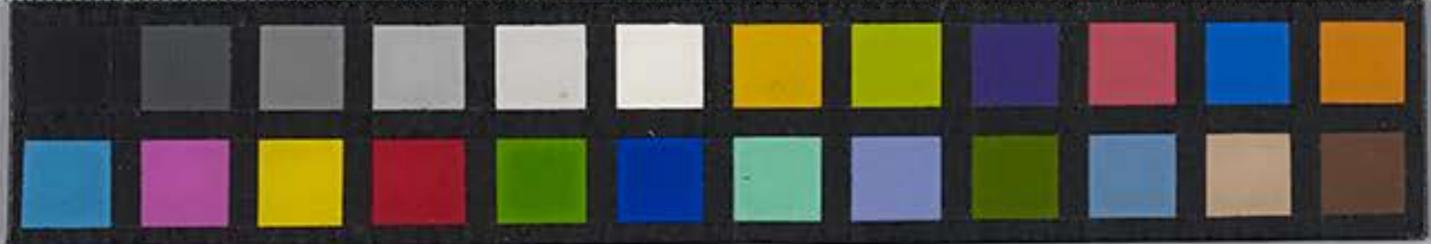
Mil. G.

I Corp

712

Mil. G.

Kyoto University



Kyoto University

東京新野田漢道
川津書店

